



YFA 育成年代U10-U18 保護者ガイドライン



選手にとって保護者とは

育成年代は、多くの人の関わりの中で人としての成長を果たします。そして、多くの人の関わりにはそれぞれの役割があります。

昨今、「子供とは友達関係」「子供とは兄弟関係」「親は子供のサポーター」などの言葉を耳にすることがあります。この場合、この子供には親の役割として成長に関わる人がいないこととなります。誰よりも深い愛情で厳しくも、優しくも関わることが出来る親が存在しない。人としての成長に限りや損なわれるものが現れる恐れはないのでしょうか。故に、保護者には選手に対して「親」としての関わりをお願いします。

YFA(山梨県サッカー協会)では、育成年代の選手に対して好きなサッカーを通して人としての成長を果たし、将来、多くの仲間と共に豊かな人生を歩むことを目的として指導を行います。だからこそ指導者は、決して何己的な判断で選手を指導することがあってはなりません。また、選手の自発性を培う為に「責める」ことは止め、「褒める」ことを増やし、健全な社会性を培う為に「叱る」べき時を見逃さない指導を行います。そして、児童期(~U12)までは「してあげる人」として多くのことを選手に学ばせ、思春期(U13~U18)からは、してあげることを少しずつ減らし、「見守れる人」として選手の自立性を培う指導を行います。

はじめに「YFA選手育成指針」について紹介し、Vo.1では「選手像」、Vo.2では「人づくり」について保護者の関わり方を確認します。

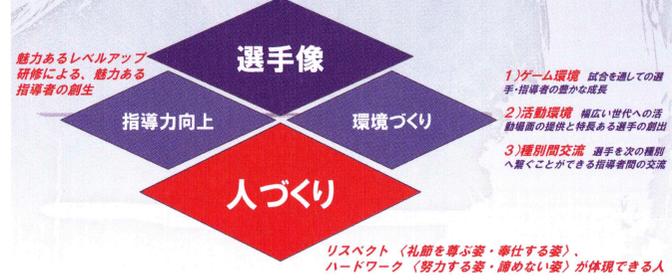


YFA 選手育成指針 2019-

めざせ強豪県復活！一貫指導体制の実現

山梨県の目指す選手育成 4つの柱

ゴールを目指し、たくましく(球際で強く)チャレンジし続ける選手
~1対1の攻守にタフな選手へ~



攻守にたくましく(球際で強く) チャレンジし続けることができる選手の育成 Vo.1

Badな関わり方

- ・局面の出来ばえに一喜一憂してしまう声援
「抜かれた、失った、バカか、何やってるetc.」
⇒うなだれる選手、自信の喪失 ⇒プレーの停止
- ・審判に対するクレームボイス
「おーい、逆だろう、ちゃんと(笛)吹け、オワサイだ！ etc.」
⇒戸惑う、共鳴する選手⇒プレーの停止

Goodな関わり方

- ・できる限り、黙って見守る事に努める
→選手は内発的なモチベーションと自らの判断で成功や失敗を経験
⇒「自立心」と「責任感」の芽生え
- ・プレーの連続(攻守の切替)を推奨する言葉かけ
→抜かれたり、ボールを失ったがプレーを連続「ナイス、いいぞ」
⇒「ミスとはプレーを止めた時である」ことへの気付
- ・審判へのクレームボイスは厳に謹むこと!!



リスペクト(礼節を尊ぶ姿・奉仕する姿)が体現できる人へ Vo.2

「人としての成長を果たした姿」とは、「自己の義務(やるべき事)を果たし、自分の為ではなく他者の為に判断や行動ができるようになること」です。このことにより、責任感があり気遣いができる人へと成長し、多くの人と関わることができる魅力的な大人として自立を成し遂げることとなります。

よって、保護者(親)の役割とは、子供が自己の義務(やるべき事)を果たすことができる人、また、リスペクト(礼節を尊ぶ姿・奉仕する姿)が体現できる人へと導くことにあります。

1) 自己の義務(やるべき事)を果たすことができる人への導き

- ①育成年代U10-U18の生活の場は学校です。児童・生徒として果たすべき義務は学校生活を整えることです。
→学業、学校行事、クラス活動(清掃・HR)の不備を見逃さない。
⇒学力(成績)は人間力のバロメーター(目安)
成績が高い: 計画力、実行力、継続力、責任感がある人
成績が低い: 言い訳が多い、気まぐれ、自己中心的な人

⇒「サッカー(やりたい事)は100%、
学業(やるべき事)には無関心・無責任(無頓着)」
これでは人としての成長もなく、大好きなサッカーにおいても本当に苦しい場面で、責任を果たすことができない選手になってしまいます。
⇒学校生活を整えて(やるべき事【義務】を果たして)、サッカーに取り組む(やりたい事【権利】を主張する)姿勢を身に付けさせる。

- ②家庭生活において「できる事」を増やし、「やるべき事」として自ら整えることができるようにする。
→「してあげる」(~U12)から「させる」関わり方へ(自立)
⇒面倒くさいができる人となり、着実な準備を持って物事に当たることができる人へ成長させる。
- ③チームの準備や片付けを自ら進んでできるようにする。
「言われたらする」⇒「言われなくてもできる」への成長

④トレーニングにおいて選手がやるべき事をする姿の共有

Badな関わり方

- ・仲間の動きを後追いしながら、仲間と同じ動きをする姿
トレーニングの目的とする姿

Goodな関わり方

- ・指導者の説明からトレーニングの目的、オーガナイズ、キーファクターを聴き取り(注意深く耳を傾け、動作をイメージする)、自らの判断で動き出しができる姿

2) 礼節を尊ぶ姿が体現できる人への導き

礼節とは「礼儀」と「節度」である。「礼儀」とは人間関係や社会秩序を維持する為に人が守るべき行動様式である。「節度」とは状況に相当した度合いのことです。

つまり、礼節とは「礼儀」を持って心から相手を思い、「節度」ある行動をとることとなります。

このことを身に付けさせる為、「自利利他(じりりた)」「(相手を幸せにする)ことで自分にも幸せがやってくる」の精神を子供に理解させて下さい。

- ①挨拶や返事をハキハキとすることができる。
・自身が「しました」ではなく、相手に明確に、快く「伝える」
- ②人の話を聴く(注意深く耳を傾け、自身の成長に繋げる)ことができる。
・話しの音を聞くのではなく、話の意図をイメージ(映像)に転換
- ③正しい言葉遣いや正しい姿勢をとることができる。
・感謝、敬意が伝わる言葉遣い、姿勢
- ④周りの人のことを考えた行動をとることができる。
・人を不愉快にさせる行動を自ら抑止

3) 奉仕する姿が体現できる人への導き

奉仕とは報酬や見返りを求めずに労働や行動を行うことであり、自分のことではなく、他人のことを考えて行動する様のことです。

つまり、私心を捨てて、社会や他人の為に尽くすこととなります。

自身に関わる全ての人(家庭、学校、地域、チーム)の為に、できる事は自ら進んで行うことができる。

⇒「どうして、私がやるの?」ではなく、「私がやります」という「自分のことはさておいて、人の為に一肌脱ぐ」思考を身に付けさせる。

ハードワーク(努力する姿・諦めない姿)が体現できる人へ

「豊かな人生を歩む」ために必要なことは、目標達成という「結果」ではなく、目標達成に向けて整えるべき準備を行い(努力)、目標を達成するまで整えるべき準備を継続できる(諦めない)という「過程(プロセス)」にあります。

よって、保護者の役割は、目標達成という「結果」を追求しながら、子供が「過程(プロセス)」においてハードワーク(努力する姿・諦めない姿)を体現できる人へと導くことにあります。

そのために、保護者は試合結果や子供のプレー結果に囚われることなく、子供の「過程(プロセス)」におけるハードワーク(努力する姿・諦めない姿)の体現を指導・評価することに努めなければなりません。

- ①何事(サッカー、学校・家庭生活)にも一生懸命に取り組むことができる。
- ②出来ないことを出来るように直向きに取り組むことができる。
- ③声を出し、体を張って、ボールに関わり続けることができる。

保護者(親)としての姿

ここまで選手がサッカーについて身に付けるもの《ゴールを目指し、逞しく(球際に強く)チャレンジし続ける選手~1対1の攻守にタフな選手へ~》、サッカーを通して学ぶべきもの《リスペクト<礼節を尊ぶ姿・奉仕する姿>、ハードワーク<努力する姿・諦めない姿>が体現できる人》を習得する為の保護者の関わり方について確認をしました。

そして、最も重要なことは保護者が伝える言葉ではなく、保護者が子供に関わる姿となります。

親自身が「損をしたくない」「得をしたい」であったり、「やるべき事【義務】を果たさずに、やりたい事【権利】を主張する」ような姿では、選手が人としての成長を果たすことは期待できません。「子供は親の鏡」です。保護者自身が生活の中で見本となってください。

子供を宝石に例えると「原石」です。「原石」を磨き上げる為に最も硬質(厳しさ)で最も柔軟(優しい)な研磨材になり得る存在こそ「親」です。

指導者は、サッカーを通して子供「原石」が大人となり、大人が紳士「宝石」となるよう導きます。保護者には子供を磨き上げる為に必要不可欠、唯一無二の磨き手としてのご協力をお願いします。

リスペクト=暴力・暴言の根絶一

誰もが安心して安全に心からサッカー、スポーツを楽しむために

サッカーに暴力も暴言もいらない!

自分も成長させてくれた、大好きなサッカーだから誰にもきらいになってほしくない!

公益財団法人 日本サッカー協会

誰もが安心・安全に心からサッカー、スポーツを楽しむために

お互いに、ありがとう!

公益財団法人 日本サッカー協会

保護者は Players First!

子どもからの招待状

今日は子ども達の日。子ども達のために、とびきり楽しいゲームを用意しよう!

いろいろな協力の方がいる。コーチは? レフェリーは? 応援する保護者は? どのような大会にするかだって、とても大切。

子どもが主役一めざせ、ベストサポーター!

子どもエリアに入る前に! 保護者のサポート

ベストサポーターを目指そう!

子ども達の日。ベンチは離れて、見守ろう。完結するつらさに、応援しよう。がんばる姿を応援しよう。自分なりの判断、トライを応援しよう。相手チームも同じ。審判も一生懸命。皆がサッカーの大切な仲間。彼の良いプレーに拍手を送ろう。転んでもすぐ立ち上がりプレーする子ども達を応援しよう。審判はちゃんと近く見て、ゲームがスムーズに進むようにコントロールしてあげよう。コーチは皆を楽しませたい。皆をうまくしたい。サッカーからは、本当にいろいろなことが学べるのだから。それを信頼しよう。子ども達が自分で準備。自分で行動。自分で片付け。どんな大人になっても子ども達を、優しく見守ろう。成長していく機会を決めておきたいようにしよう。彼で、子ども達とたくさん話をしよう。子ども達の話を聞こう。楽しかった、エキサイティングだったゲームの話を聞こう。楽しそうだったら、ご自分でも身体を動かしてみたいですか?

Smile OK! 笑顔が、子ども達を笑顔にする。一緒に楽しもう!

保護者のみなさまへめざせ! ベストサポーター

みんな大切なサッカーの仲間です

みんな大切な仲間 サッカーに臨まずに

みんな大切な仲間 サッカーに臨まずに

子どもが主役一めざせ、ベストサポーター!